**Ⅰ．研究主題**

国語（小）部会　第28期　研究計画（案）

**考えの形成につなげる新しい時代の国語教育**

**Ⅱ．研究目的**

**1．主題設定の理由**

(1)研究の経過

**第25期（平成26～27年度）**

**「総合的な国語の力を育成する、多彩な学習構成の創造」**

**～文学的文章を支える「表現のしくみ」に着目して～**

①従前の部会研究で積み上げてきた指導観を継承しつつ、「単元を貫いた言語活動の設定」等の新しい指導観を取り入れる試みとして、文学的文章教材の指導における３つの「学習構成モデル」に基づく授業展開、「表現のしくみ」に着目した年間の指導計画作成を柱とした実践の交流。

②１年間を見通し、いつ、何を学ぶかを、明確に意識した指導計画および授業作りに取り組み、目の前の子どもたちの実態に応じた「総合的な国語の力」の育成、伸長を図った。

**第26期（平成28～29年度）**

**「多様な手立てによる『総合的な国語の力』の育成」**

**～説明的文章教材における「表現のスキル」の習得と活用をめざして～**

①第25期の「文学的文章教材」の両翼の一方を担う「説明的文章教材」を扱い、「つけたい力」を念頭にした「手立て」を工夫する研究を進めた。

②系統立てた指導（『表現のスキル』系統表）、実態の把握、つけたい力とそれに応じた工夫が必要かつ重要であるという認識を部会員で共有することができた。

**第27期（平成30～令和元年度）**

**「伝え合う力を高める授業の創造」**

**～思考力や想像力を養う表現活動の工夫を通して～**

①『表現のしくみ』と『表現のスキル』の系統表の活用を通して、「思考力、想像力」を高めるための表現活動の工夫について研究を進めた。

②6年間の指導事項の系統性を念頭におき、身に付けさせたい力を明確にした学習指導の重要性について確認することができた。

初めに確認しておきたいことは、新「学習指導要領」では、**「国語で正確に理解し適切に表現する」**という順で国語科の目標が示されていることである。

第27期で研究してきた表現活動を行うためには、「表現のスキル」を身に付けるための「『読むこと』教材の内容価値や要素」「教材の構造や展開、表現、視点」「教材を創出した作者や筆者などへの着目の仕方」等を、**まずは理解する必要がある**ということである。

第28期は、新「学習指導要領」が施行され、教科書も替わる大きな転換期である。今この時に、児童が、「何を」、「どのように」学び、「何ができるようになる」ことが必要なのかを研究し、議論を重ねたい。

(2)主題について

　新「学習指導要領」では、**「考えの形成」**が重視されている。**「考えの形成」**とは、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既有の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくことである。こうして形成された考えが、その後の表現活動の「表現する内容」につながるのである。また、「構造と内容の把握」→「精査・解釈」→**「考えの形成」**→「共有」というように、読むことの学習過程が一層明確化された。ここで注目したいのは、**「考えの形成」**に至るまでの道筋として、「構造と内容の把握」「精査・解釈」（理解）の部分が非常に重要なのではないかということである。

「構造と内容の把握」「精査・解釈」の段階では、俯瞰（全体を見渡して大まかな構造や内容を捉える）から焦点化（必要に応じて詳しく読む）していくことが有効である。具体的には、例えば説明的な文章では、論の展開の仕方や表現の技法を検討して要旨を捉え、批評することである。また文学的な文章では、全体を見渡して読むことで、何が、どのように変わったのかを捉え、主題をつかむことである。「構造と内容の把握」「精査・解釈」のために指導事項を明確にし、それを切り口にした新しい読み方が必要だろう。

以上の点を踏まえ、**「考えの形成につなげる国語教育」**が必要であると考え、研究主題を設定した。そして、教科書が替わり、新教材がある中で、どう読むことが「考えの形成」のために効果的なのか、部会員の仲間で語り合いたい。

次に**「新しい時代」**についてだが、新「学習指導要領」、新教科書、新しい読み方等、「新」という言葉が付くからというだけではない。ここで重要なのは、児童が、どのように学ぶかという視点である。国語科の指導計画の作成に当たり、児童の**「主体的・対話的で深い学び」**の実現に向けた授業改善を進めることは広く知られていることだろう。新しい学習過程と照らし合わせながら指導計画を立てる際、**「主体的・対話的で深い学び」**も位置づけていきたい。

国語科における主体的な学び

学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面の設定

〈例〉個の問いを顕在化する工夫、試行錯誤できる学習環境、学習内容のまとめ・適用、必要感のある課題設定、多様な学び方の提供、文字言語での振り返り

国語科における対話的な学び

　　対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面の設定

〈例〉対話する必然性のある課題設定、学習内容に応じたグループサイズ（ペア→グループ→全体等）の運用、情報の取捨選択、話を聞き合える関係性の構築

国語科における深い学び

　　児童が考える場面と教師が教える場面の組立て

　　〈例〉知識や技能の適用場面を設定、既習内容や経験と関連付けた思考の促進、個の問いの顕在化、必要な課題の設定

ただし、「主体的・対話的で深い学び」は、必ずしも1単位時間の中で全てが実現されるものではない。例えば、主体的な学びを促すために、ゴールを明確にした掲示をしたとする。これは、何のために、何を学ぶのかを見通すための、単元を通した主体的な学びにつながる。いつ、どんな場面で、どのように学ぶのが効果的なのか、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導計画についても研究したい。

**2．目指す子ども像**

|  |
| --- |
| （１）文章の構造や内容を理解し、自分の考えを形成することができる子ども（２）周りの人たちと共に考え、学び、言葉がもつよさを認識できる子ども |

**3．研究仮説**

|  |
| --- |
| 指導事項や学習内容を明確にし、学習過程を工夫することにより、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深められる児童を育てることができる。 |

**Ⅲ．研究内容**

　**1．研究領域**

|  |
| --- |
| 　「読むこと」領域の「構造と内容の把握」「精査・解釈」場面 |

**2．研究の柱**

|  |
| --- |
| （１）「構造と内容の把握」「精査・解釈」における文章理解を高めるための指導事項（２）文章理解を高めるために効果的な「主体的・対話的で深い学び」 |

　**3．教育課程研究**

　　　教育課程委員研修会において、第28期研究の一環として、第二次研究協議会で扱う教材以外についての「指導事例」を試作し、部会員に配付する（予定）。

**Ⅳ．研究方法**

1．令和３・４年度の２ヵ年計画で行う。

　2．中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。ただし、各市町村第二次研究協議会における授業公開および石教研第二次研究協議会での提言を行う学年と教材については、討議の場での共通理解を図るため、原則次の通りとする。なお、授業を行う学年の指定は行わない。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学年 | 教　材　名 | 指導事項・学習内容　例 |
| 1年生 | 【説】うみのかくれんぼ・じどう車くらべ【文】やくそく・くじらぐも | 【説】問いと答え、順序、事例　重要な語や文、主語述語、挿絵【文】題名、作者、登場人物、登場人物の言動、場面の様子、かぎ（「」）、挿絵、想像、あらすじ |
| 2年生 | 【説】どうぶつ園のじゅうい・馬のおもちゃの作り方【文】お手紙 | 【説】筆者、文章の組み立て、主語述語、時間と事柄の順序、簡単な構成、内容のまとまり、絵と写真【文】場面、登場人物の様子と行動、言葉と挿絵、様子や気持ちの変化 |
| 3年生 | 【説】すがたをかえる大豆【文】まいごのかぎ、ちいちゃんのかげおくり | 【説】文章の組み立て、段落、比較・分類、言葉の意味・使い方、大事な文、話題と例、写真【文】登場人物の気持ちの変化、様子や行動・気持ちや性格を表す言葉、想像、場面分け（場所と出来事）、会話文と地の文、場面の比較、読み手の（立場による）気持ち |
| 4年生 | 【説】世界にほこる和紙【文】一つの花、ごんぎつね | 【説】文章の組み立て、筆者の考え、初め中終わり、事例、中心語、中心文、要約【文】設定、登場人物の気持ちの変化、情景、様子や行動・気持ちや性格を表す言葉、場面の比較・結合、特別な言葉、情景や場面の様子が分かる表現 |
| 5年生 | 【説】固有種が教えてくれること【文】たずねびと | 【説】文章全体の構成、見出し、文章と図表、事例と感想・意見、要旨【文】登場人物の相互関係、描写、人物像、物語の全体像、心情の変化、表現の効果 |
| 6年生 | 【説】『鳥獣戯画』を読む【文】やまなし | 【説】引用、文章と資料、論の展開、筆者の評価、表現の工夫、体言止め【文】題名、構成、独特な表現、比喩や反復、色彩表現、対比、視点 |

3．各市町村サークルは、主題の解明を図るために、以下の要領で部会研究を進める。

　　（1）授業学年の各教材について、「どの教材でどのような指導事項や学習内容が適当か」を、児童の実態を鑑みながら検討し、年間指導計画を作成する。

　　（2）年間指導計画に沿って、公開授業単元の学習構成を検討する。

　　（3）授業公開後、事後研を持ち、提言をまとめる。

　　　＊年間指導計画、指導案形式、提言の形式については新年度発行の「研究ガイド」に掲載する。

4．実技理論研修会を開催し、今研究に関わる学習および日常の実践に活きる学習の場を設定する。

5．「各学年の指導事項」を作成し、年間指導計画作成の際に役立てられるよう、ＨＰにも掲載する。

**Ⅴ．研究体制（組織・運営）**

　1．研究中心サークルを研究１年次目の令和３年度は千歳市、研究２年次目の令和４年度は恵庭市とする。

　2．**分科会構成は、低・中・高の3ブロックを基本**とする。分科会での研究協議は、中心サークルの授業提言の他、各市町村サークルの提言を主とするが、個人レポート提言も受け付ける。また、分科会協議の深化を図るため、各市町村の提言状況やレポート数によって時間配分を考慮する。

　3．推進委員研修会（部会役員・各市町村の推進委員）を組織し、研究計画の具体化や石教研第二次研究協議会の運営等について協議する。

　4．定期的に部会報「はまなす」を発行し、研究内容や各種研修会の周知等に努める。

　5．不定期に「研究ガイド」を発行し、部会研究の取り組みの向上と焦点化を図る。

**Ⅵ．年間計画**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時期 | 研修会名・事業名 | 内　　容 |
| 4月 | 石教研専門部会第一次研究協議会・役員研修会 | 研究計画、研究体制の確認 |
| 「はまなす」№1発行 | 年間指導計画様式 |
| 5月 | 役員研修会、推進委員研修会① | 各市町村提言予定状況の確認 |
| 6月上旬 | 「はまなす」№2発行・研究ガイド発行 | 各市町村提言予定状況、部会事業計画、サークル便り交流、第二次研究協議会に向けて提言の仕方提示 |
| ６月 | 実技理論研修会（予定） |  |
| 7月 | 推進委員研修会②、役員研修会 | 第二次研究協議会開催要項検討 |
| 9月上旬 | 「はまなす」№3発行 | 第二次研究協議会開催要項 |
| 10月 | 第二次研究協議会拡大推進委員研修会 | 第二次研究協議会開催要項確認 |
| 石教研専門部会第二次研究協議会 | 授業提言、分科会交流 |
| 11月 | 推進委員研修会③、役員研修会 | 第二次研究協議会交流、アンケート見解検討、「石狩の教育」原稿検討 |
| 「はまなす」№4発行 | アンケート集約、見解 |
| 管内詩集『石狩の子』原稿提出締め切り |  |
| 12月 | 役員研修会 | 次年度研究内容の立案・検討、『石狩の子』編集作業 |
| 1月 | 推進委員研修会④、役員研修会 | 次年度研究計画案内容検討 |
| 「はななす」№5発行 | 次年度研究計画案提示 |
| 管内詩集『石狩の子』発行 |  |
| 2月 | 推進委員研修会⑤、役員研修会 | 次年度研究計画案意見集約・検討、修正 |
| 3月 | 「はまなす」№6発行 | 次年度研究計画決定版・教育課程委員検討内容 |

教育課程委員会、『石狩の子』編集委員会については、随時開催する。

（文責　岩崎　晋也）